第2回長野県小水力活用検討会 会議録 (概要)

日時: 平成 22 年 6 月 14 日 (月) 10:00~11:10

場所:長野県庁議会棟 402 号会議室

〇全体の司会進行

環境部環境政策課 小山企画幹

1 開 会

2 あいさつ

池田会長

- ・小水力発電に関しては、長野県の地域特性を活かした自然エネルギーであり、県内の発展につなげていきたいと思っている。
- ・前回の検討会で選定した実証調査候補箇所について、5月31日と6月1日に現地調査を実施した。ご協力いただいた市町村に御礼申しあげる。

3 議事

(1) 実証調査箇所の選定及び内容について

〇実証調査箇所の選定

【資料1】及び資料1 参考に沿って、現地調査の状況やその際に委員から出された意見等を事務局で説明した後、委員間により、選定のための審議を行った。

1)栄村

- 環境教育にも活用できる点で評価が高い。また、湧水を使った小水力発電というのは県内でも事例がなく大きな特徴となる。
- ・県内には他にも湧水が多いので、モデルになりうると思う。また、この水は、 昨年度、県の「名水・秘水」に選定されており、水も飲めるし、発電もできる ということで魅力的である。

②野沢温泉村

- 野沢温泉村からの要望もあるし、事業の目的にも沿っていると思われる。
- ・まくね川のポテンシャルを考えると、もっと大きな規模の発電も可能である。 今回の調査はこれで仕方ないが、今後に活かす形でもっていって欲しい。
- ・野沢温泉村からの要望もあるし、事業の目的にも沿っていると思われる。
- ・発電した電力を下水処理施設内で使用するとなると、時間もお金もかかってしまうので、施設外(街灯など)の方がやりやすいし、わかりやすいと思う。将来的に発電規模を大きくした際に、施設内利用にしたらどうか。

③箕輪町

- ・流量的には魅力ある場所だが、落差のある場所がない。また、水利権の取得の ため、流量調査だけでも1年間ぐらい要してしまう。
- この緑の分権改革推進事業の枠組みでは難しいと思われる。

④木曽町(水産試験場と万郡沢とを一括で審議)

- ・町からは、万郡沢を優先してほしいという要望があるので、そちらを優先して 考えることとする。
- ・万郡沢は、1年の実証調査で全て実施するのは難しい、また、地形的に工事費がかかってしまう場所。仮に1kWの発電規模としても1000万円以上は要する。1kW以下の発電には向かない。とはいえ、ポテンシャルはかなり大きい。きちんと流量調査などをして設置までの道筋をつけることとしたらどうか。
- ・総務省との委託契約上の問題はないのか。
 - ⇒問題ないと聞いている。(事務局)
- 10kW 以上の発電となると、電気事業法にひっかかる可能性もある。水量、発電方法に加え、利用方法もこの調査で検討したらどうか。

以上の審議の結果

- ・野沢温泉村、栄村、木曽町(万郡沢)を選定 なお、野沢温泉村と栄村は、実際に発電設備を設置した実証調査を実施。 木曽町(万郡沢)については、最も適した発電方法や発電した電力の利活用方 法等について、流量調査等も実施しながら検討し、設計書の作成まで実施する。
- 〇野沢温泉村、栄村、木曽町の各箇所が選定されたところで、各市町村の担当課長を 委員として追加することを了承。
- 〇選定された3箇所における具体的な発電方法、電力の利用方法等については、プロポーザルにより提案を受けることとしているが、資料1にも記載されているとおり、その一案を、委員から参考として提案している。

小水力発電には様々な水車、発電方法があることから、その見地を深めるため、<u>参</u> 考資料に沿って、飯尾委員から説明をいただいた。

- サボニウス水車
- 急流工の河川用水車
- ジェット水車
- 滝用水車
- クロスフロー水車

水車発電の使い道

〇実証調査箇所の内容について

【資料2】に基づき確認。特に意見なし。

趣旨

野沢温泉村、栄村については、水力発電設備・装置を実際に設置することとし、 木曽町については、最も効果的な手法を検討した上で設計書を作成することと する。

- · 実証調査箇所 木曽町、野沢温泉村、栄村
- ・発電規模 野沢温泉村、栄村は 300W程度とする。木曽町については、発電規模も含め、 最も効果的な手法を検討することとする。
- ・発電方法、発電した電力の利用方法の考え方については、原案のとおり。

(2) 導入可能性調査の内容について

【資料3】(5/25と同じ内容)に基づき確認。特に意見なし。

⇒ (1)、(2) について、上記内容で決定し、今後、県で一括してプロポーザルにかけることとした。

4 その他

特になし

5 閉 会



